

調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

平成 17 年の我が国の漁業・養殖業の生産量は 576 万 4,540 t で、前年に比べ 1 万 934 t (0.2 %) 減少した。

このうち、海面漁業の漁獲量は 445 万 6,890 t で、前年に比べ 1,813 t (0.0 %) 増加した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は 54 万 7,785 t で、前年に比べ 1 万 2,352 t (2.3 %) 増加、沖合漁業は 244 万 4,475 t で、前年に比べ 3 万 8,517 t (1.6 %) 増加、沿岸漁業は 146 万 4,630 t で、前年に比べ 4 万 9,055 t (3.2 %) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は 121 万 1,987 t で、前年に比べ 2,999 t (0.2 %) 減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は 9 万 5,663 t で、前年に比べ 9,748 t (9.2 %) 減少した。

図 1 漁業・養殖業生産量の推移

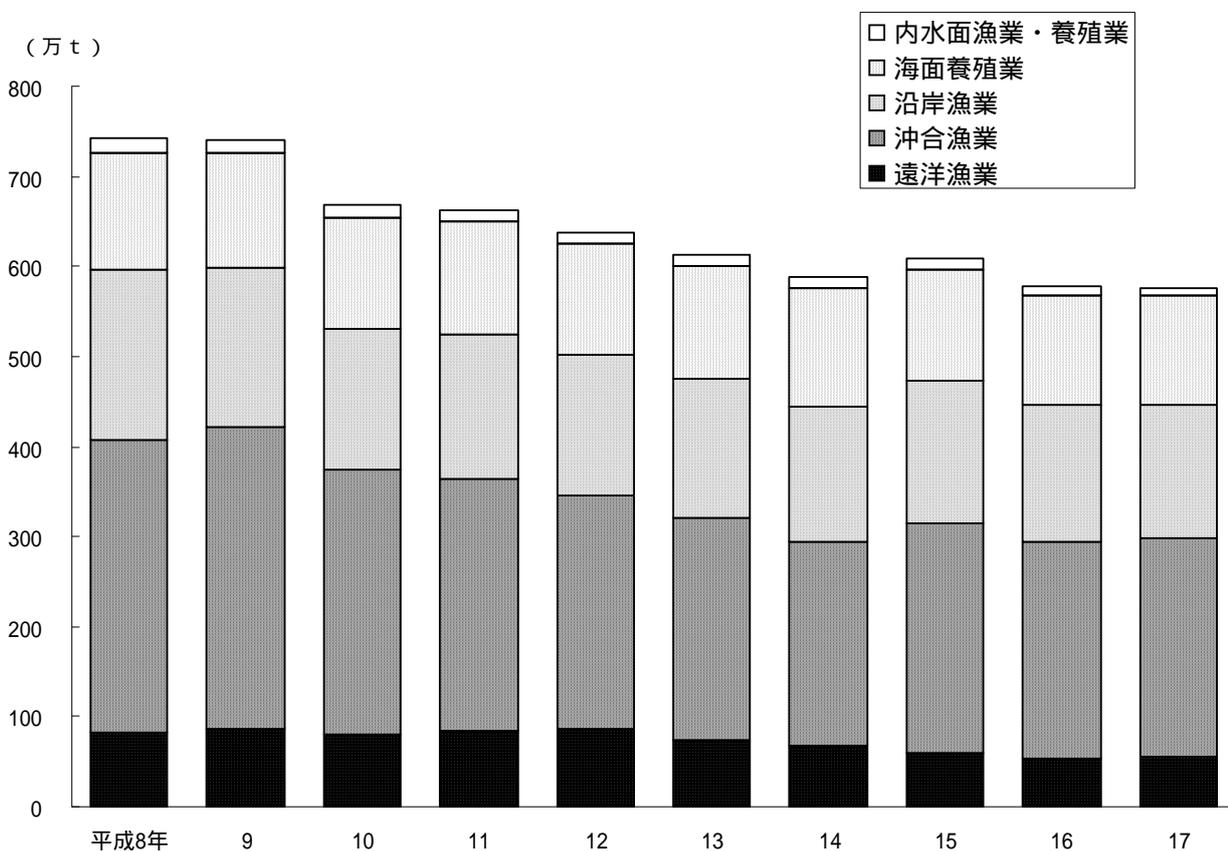


図3 海面漁業部門別漁獲量の推移

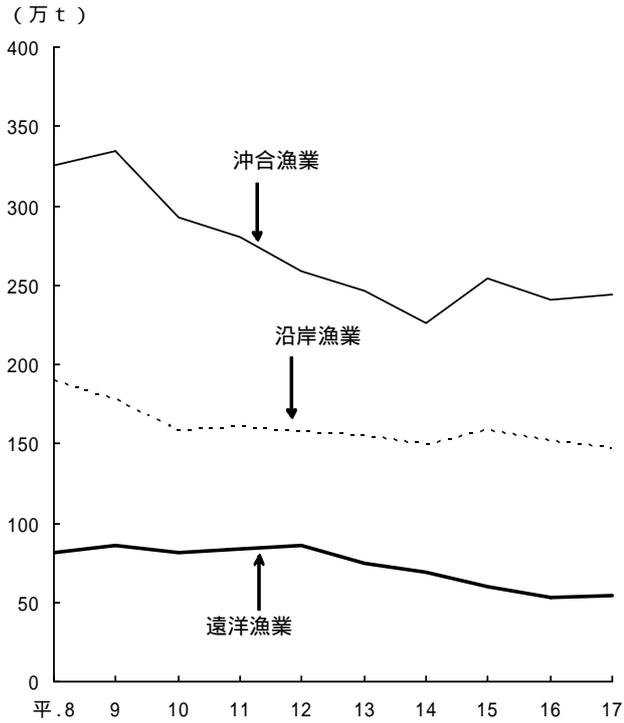


図4 遠洋漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

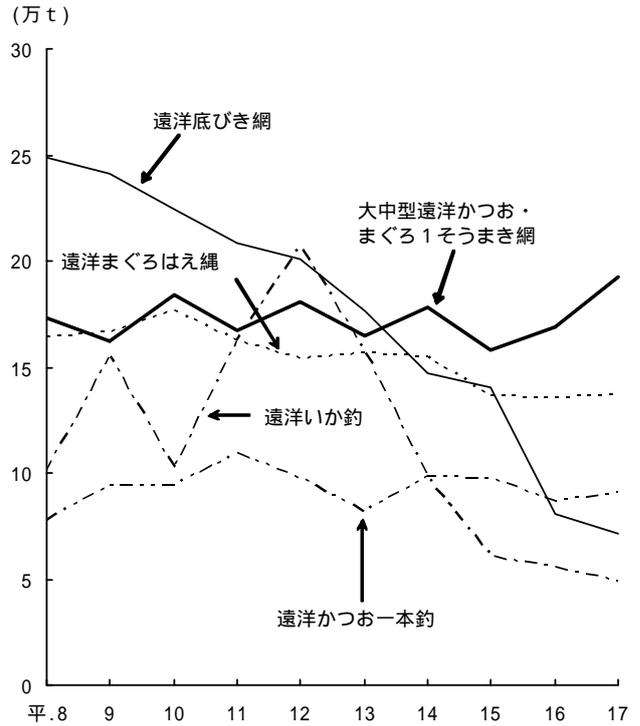


図5 沖合漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

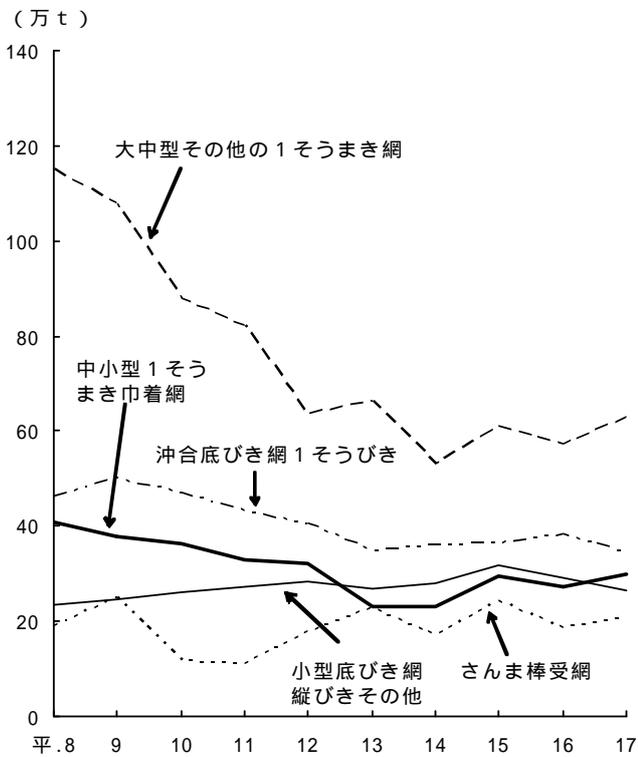
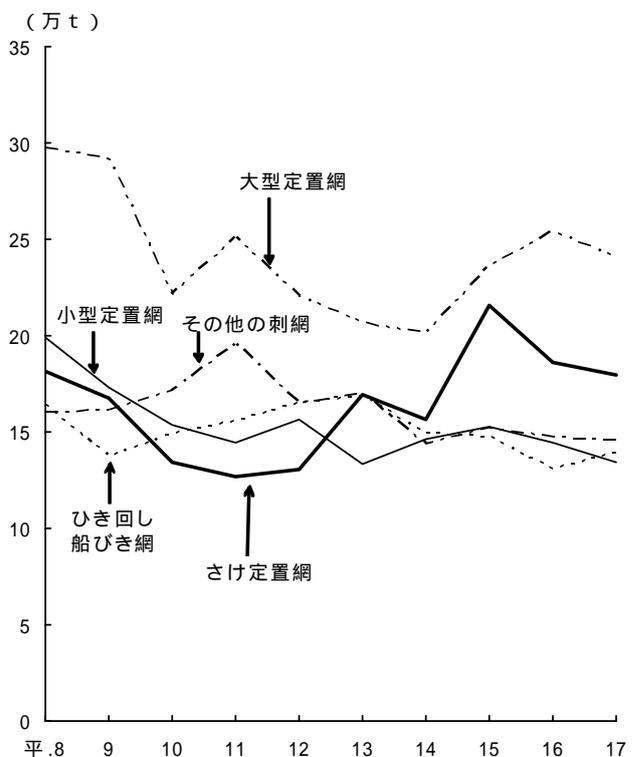


図6 沿岸漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

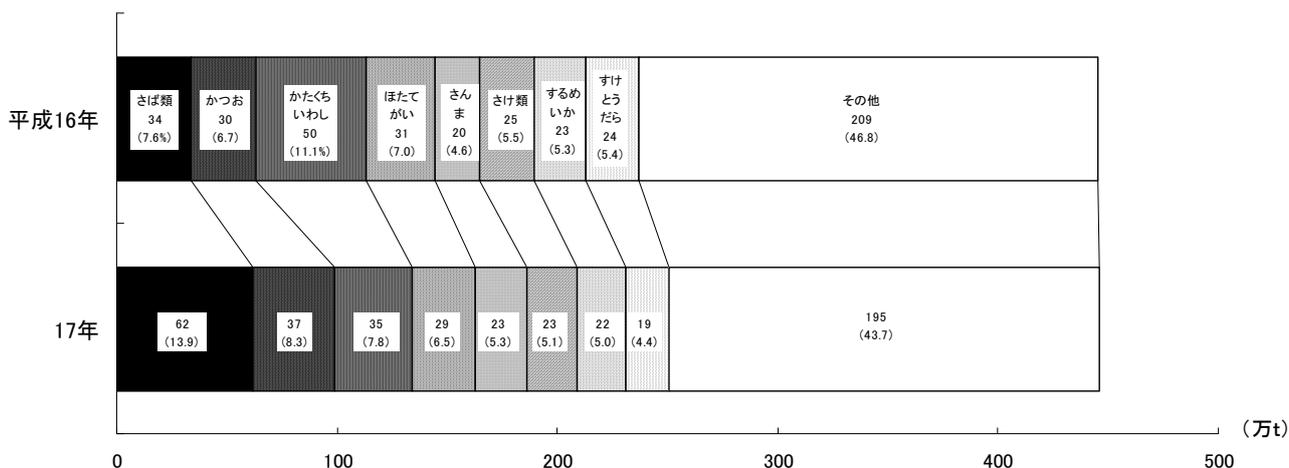


イ 主要魚種別漁獲量

海面漁業の主要魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した魚種は、さば類、かつお、さんまであり、減少した魚種はかたくちいわし、ほたてがい、さけ類、するめいか、すけとうだらであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が 13.9 %、かつおが 8.3 %、かたくちいわしが 7.8 %、ほたてがいが 6.5 %、さんまが 5.3 %、さけ類が 5.1 %、するめいか 5.0 %、すけとうだらが 4.4 % となった。

図 7 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) さば類

漁獲量は 62 万 393 t で、前年に比べ 28 万 2,295 t (83.5 %) 増加した。

これは、その他の敷網等による漁獲量が減少したものの、大中型その他の 1 そうまき網、中・小型 1 そうまき巾着網等による漁獲量が増加したためである。

(イ) かつお

漁獲量は 37 万 384 t で、前年に比べ 7 万 3,793 t (24.9 %) 増加した。

これは、沿岸かつお一本釣等で漁獲量が減少したものの、近海かつお・まぐろまき網、遠洋かつお・まぐろまき網等による漁獲量が増加したためである。

(ウ) かたくちいわし

漁獲量は 34 万 8,647 t で、前年に比べ 14 万 7,148 t (29.7 %) 減少した。

これは、ひき回し船びき網等による漁獲量が増加したものの、大中型その他の 1 そうまき網、大中型 2 そうまき網等による漁獲量が減少したためである。

(エ) ほたてがい

漁獲量は 28 万 7,486 t で、前年に比べ 2 万 6,314 t (8.4 %) 減少した。

これは、気象の影響等により、漁獲量の大部分を占める北海道において、漁獲量が減少したためである。

(オ) さんま

漁獲量は 23 万 4,451 t で、前年に比べ 3 万 80 t (14.7 %) 増加した。

これは、大型定置網等による漁獲量が減少したものの、さんま棒受網、その他の刺網等による漁獲量が増加したためである。

(カ) さけ類

漁獲量は22万9,279 tで、前年に比べ1万5,983 t (6.5%) 減少した。
これは、さけ定置網等による漁獲量が減少したためである。

(キ) するめいか

漁獲量は22万2,360 tで、前年に比べ1万2,243 t (5.2%) 減少した。
これは、沿岸いか釣、沖合底びき網1 そうびき等による漁獲量が減少したためである。

(ク) すけとうだら

漁獲量は19万4,049 tで、前年に比べて4万5,323 t (18.9%) 減少した。
これは、沖合底びき網1 そうびき、沖合底びき網2 そうびき等による漁獲量が減少したためである。

図8 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位~4位)

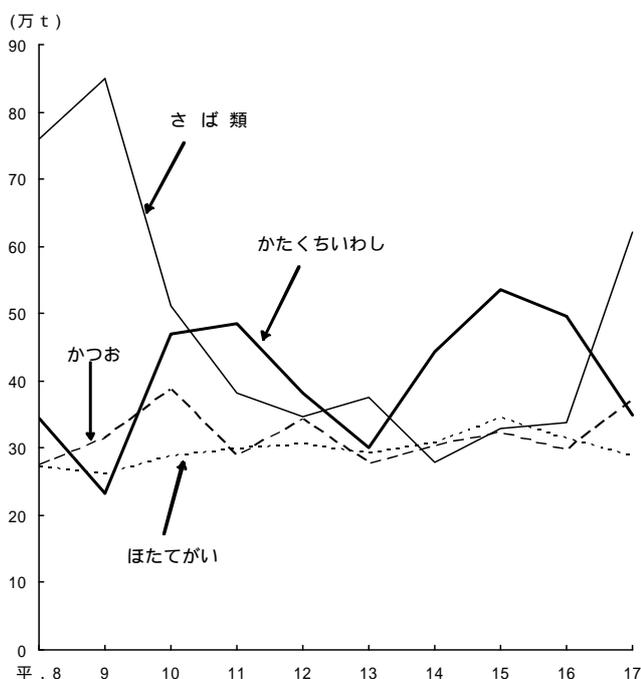
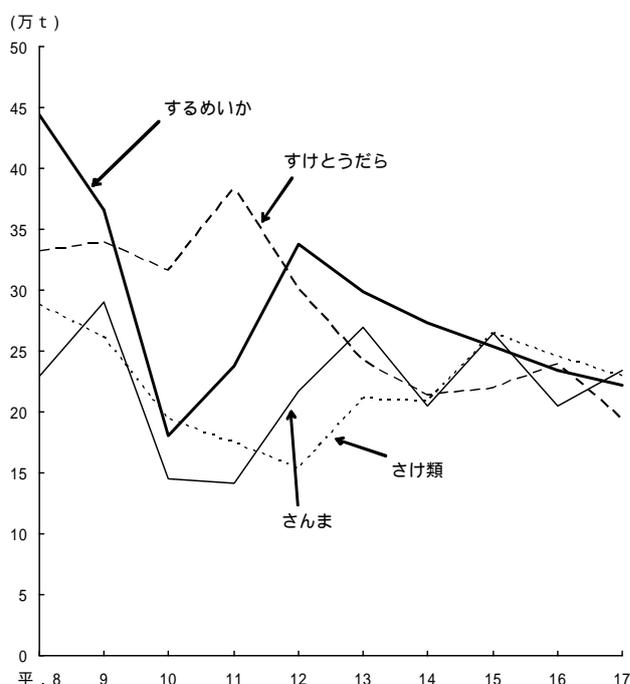


図9 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位5位~8位)



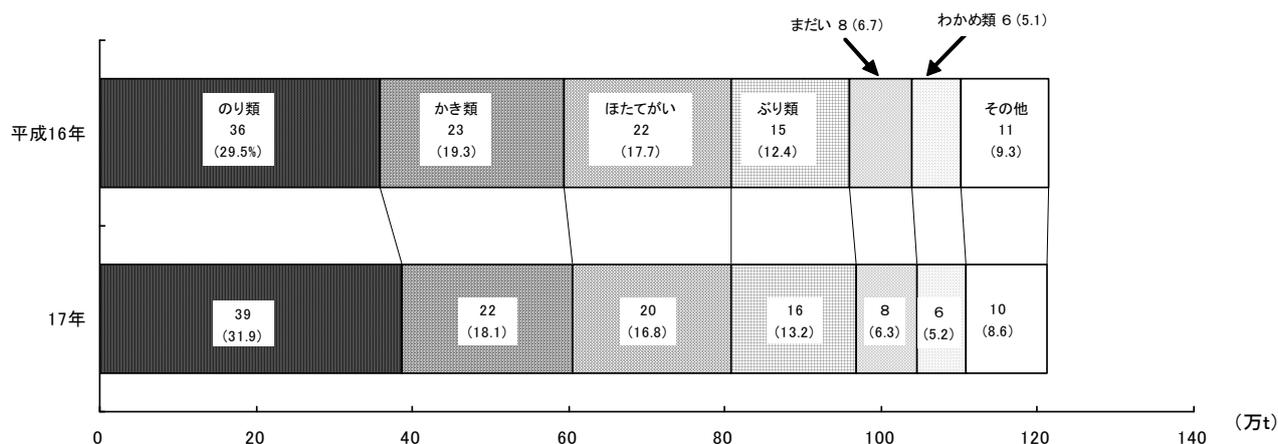
(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は121万1,987 tで、前年に比べ2,999 t (0.2%) 減少した。

収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、のり類、ぶり類であり、減少した主な魚種は、かき類、ほたてがいであった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類31.9%、かき類(殻付き)18.1%、ほたてがい16.8%、ぶり類13.2%、まだい6.3%、わかめ類5.2%となった。

図 10 海面養殖業魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は26万8,921 tで、前年に比べ6,641 t (2.5%)増加した。

(ア) ぶり類

収穫量は15万9,741 tで、前年に比べ9,673 t (6.4%)増加した。

これは、高知県等で減少したものの、鹿児島県、宮崎県等で増加したためである。

(イ) まだい

収穫量は7万6,082 tで、前年に比べ4,877 t (6.0%)減少した。

これは、香川県等で増加したものの、高知県、愛媛県等で減少したためである。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は12,729 tで、前年に比べ3,122 t (32.5%)増加した。

イ 貝類

収穫量は42万4,680 tで、前年に比べ2万6,543 t (5.9%)減少した。

(ア) ほたてがい

収穫量は20万3,352 tで、前年に比べ1万1,851 t (5.5%)減少した。

これは、北海道でやや増加したものの、青森県でかなり大きく減少したためである。

(イ) かき類(殻付き)

収穫量は21万8,896 tで、前年に比べ15,255 t (6.5%)減少した。

これは、岩手県等で増加したものの、宮城県、広島県等で減少したためである。

図 11 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

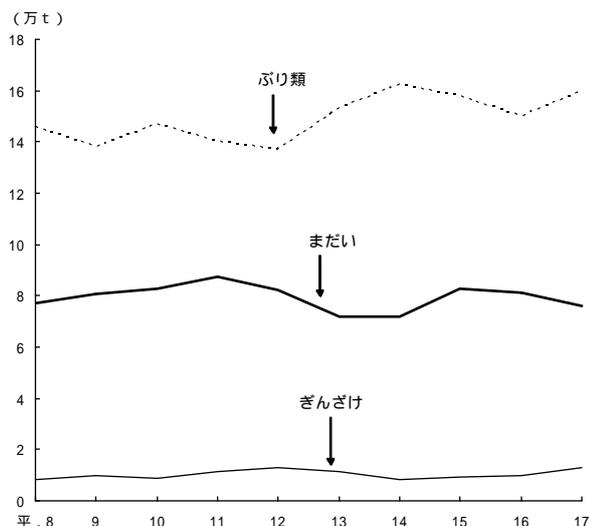
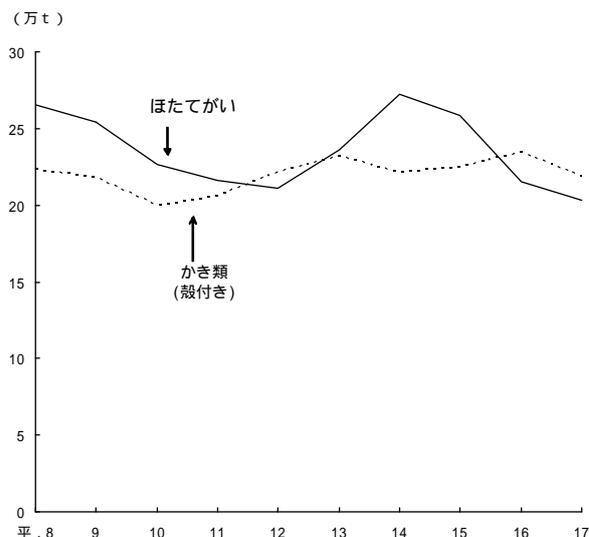


図 12 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は50万7,741 tで、前年に比べ23,352 t（4.8％）増加した。

(ア) のり類（生重量）

収穫量は38万6,574 tで、前年に比べ2万7,645 t（7.7％）増加した。

これは、香川県等で減少したものの、兵庫県、佐賀県、熊本県等で増加したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は6万3,082 tで、前年に比べ846 t（1.4％）増加した。

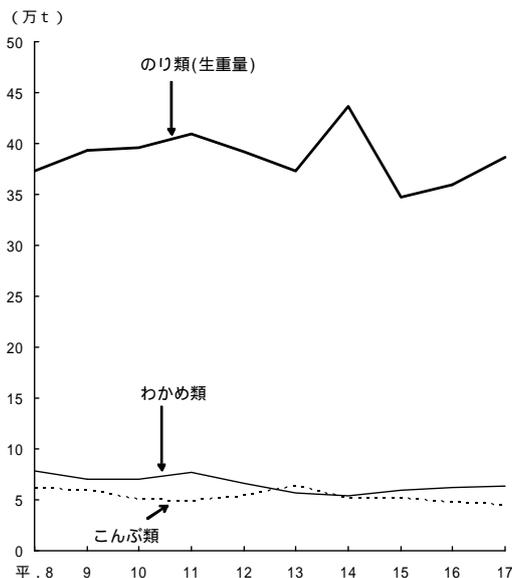
これは、兵庫県で減少したものの、徳島県、三重県等で増加したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は4万4,489 tで、前年に比べ2,767 t（5.9％）減少した。

これは、岩手県等で増加したものの、北海道、宮城県等でかなり減少したためである。

図 13 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 106 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 5 万 4,064 t で、前年に比べ 5,924t(9.9%)減少した。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 3 万 4,389 t で、前年に比べ 3,503 t（9.2％）減少した。

また、湖沼における漁獲量は 1 万 9,675 t で、前年に比べ 2,421 t（11.0％）減少した。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) さけ類

漁獲量は 1 万 6,269 t で、前年に比べ 2,834 t（14.8％）減少した。

これは、岩手県でかなり増加したが、主産県である北海道で大幅に減少したためである。

(イ) しじみ

漁獲量は 1 万 3,455 t で、前年に比べ 2,779 t（17.1％）減少した。

これは、島根県、青森県等で減少したためである。

(ウ) あゆ

漁獲量は 7,149 t で、前年に比べ 163 t（2.2％）減少した。

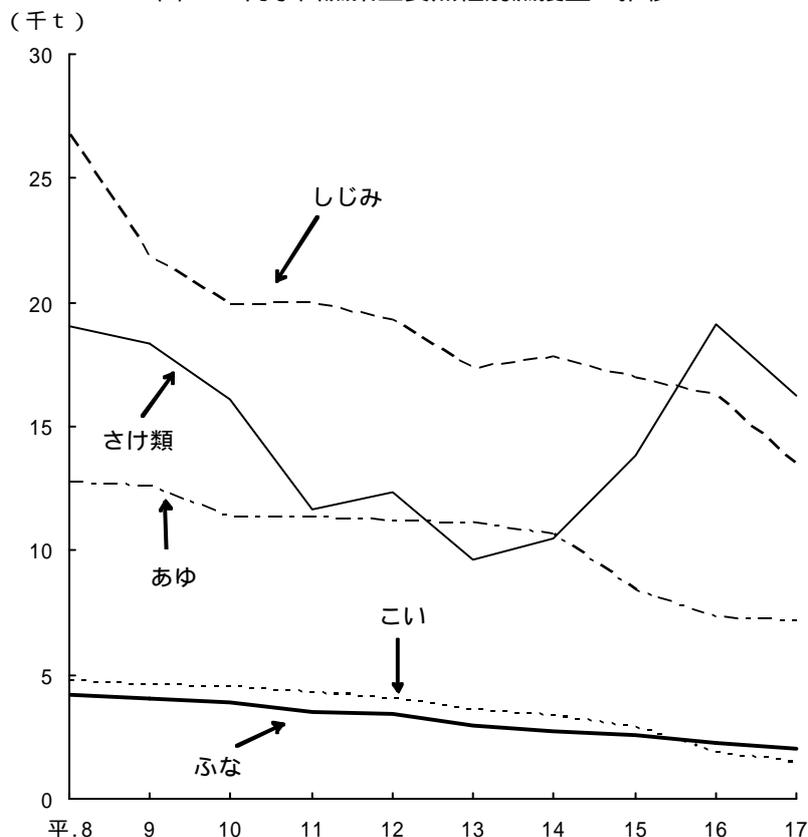
これは、徳島県等で減少したためである。

(I) こい

漁獲量は 1,484 t で、前年に比べ 359 t（19.5％）減少した。

これは、コイヘルペスウイルス病等の影響により、福島県等で減少したためである。

図 14 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は4万1,599 tで、前年に比べ3,824 t (8.4%) 減少した。

ア うなぎ

収穫量は19,495 tで、前年に比べ2,045t (9.5%) 減少した。

これは、愛知県、宮崎県等で減少したためである。

イ にじます

収穫量は8,148 tで、前年に比べ700 t (7.9%) 減少した。

これは、長野県、新潟県等で減少したためである。

ウ あゆ

収穫量は6,527 tで、前年に比べ674 t (9.4%) 減少した。

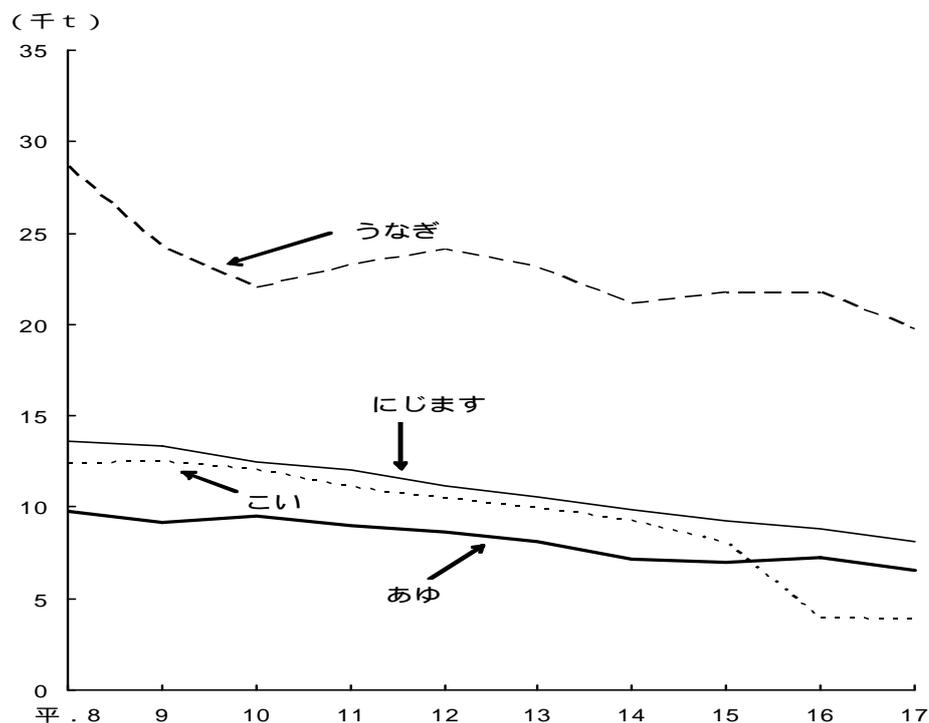
これは、徳島県、和歌山県等で減少したためである。

エ こい

収穫量は3,845 tで、前年に比べ121 t (3.1%) 減少した。

これは、前年に発生したコイヘルペスウイルス病の影響により、群馬県、福島県等で減少したためである。

図 15 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



2 漁業・養殖業生産額

平成17年の漁業生産額は1兆6,004億円で、海面漁業・養殖業が全体の93.6%を占めている。

内訳をみると、海面、内水面とも養殖業の生産額は増加したものの、漁業の生産額が減少したため、全体では前年に比べ0.2%減少となった。

図16 漁業生産額の構成比

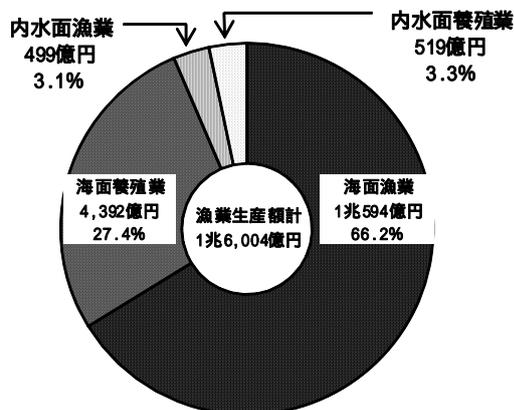
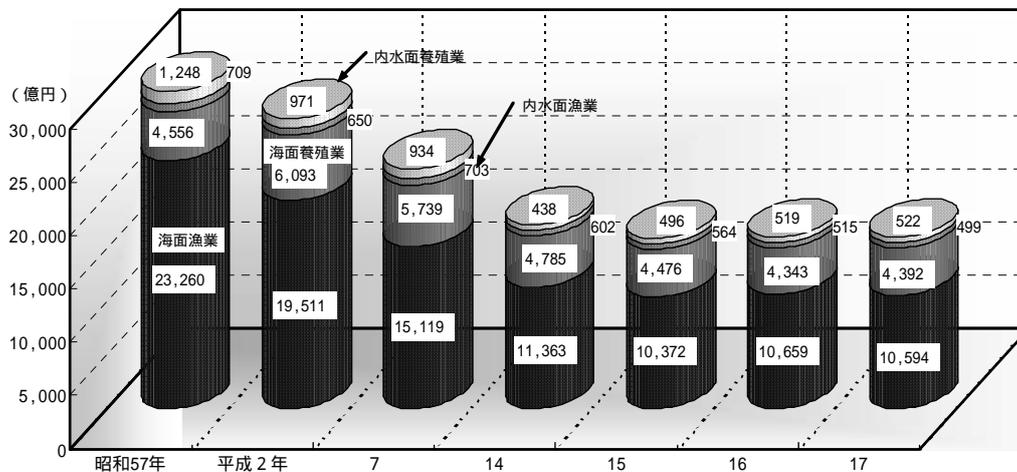


図17 漁業生産額の推移



(1) 海面漁業

平成17年の海面漁業の生産額は、1兆594億円で、前年に比べ0.6%減少した。

ア 魚類の生産額は、7,234億円で前年に比べ1.5%減少した。

(ア) 生産額が増加した主な魚種

a さけ類

生産額は638億円で、漁獲量は減少したものの、価格が上昇したことから、前年に比べ11.2%増加した。

b しらす

生産額は280億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格も上昇したことから、前年

に比べ38.7%増加した。

(イ) 生産額が減少した主な魚種

a まぐろ類

生産額は1,529億円で、めばち等の漁獲量が減少したことから、前年に比べ2.4%減少した。

b かつお

生産額は595億円で、漁獲量は増加したものの、価格が低下したことから、前年に比べ14.1%減少した。

c さんま

生産額は157億円で、漁獲量は増加したものの、価格が低下したことから、前年に比べ31.4%減少した。

d ぶり類

生産額は225億円で、漁獲量が減少したことに加え、価格も低下したことから、前年に比べ20.8%減少した。

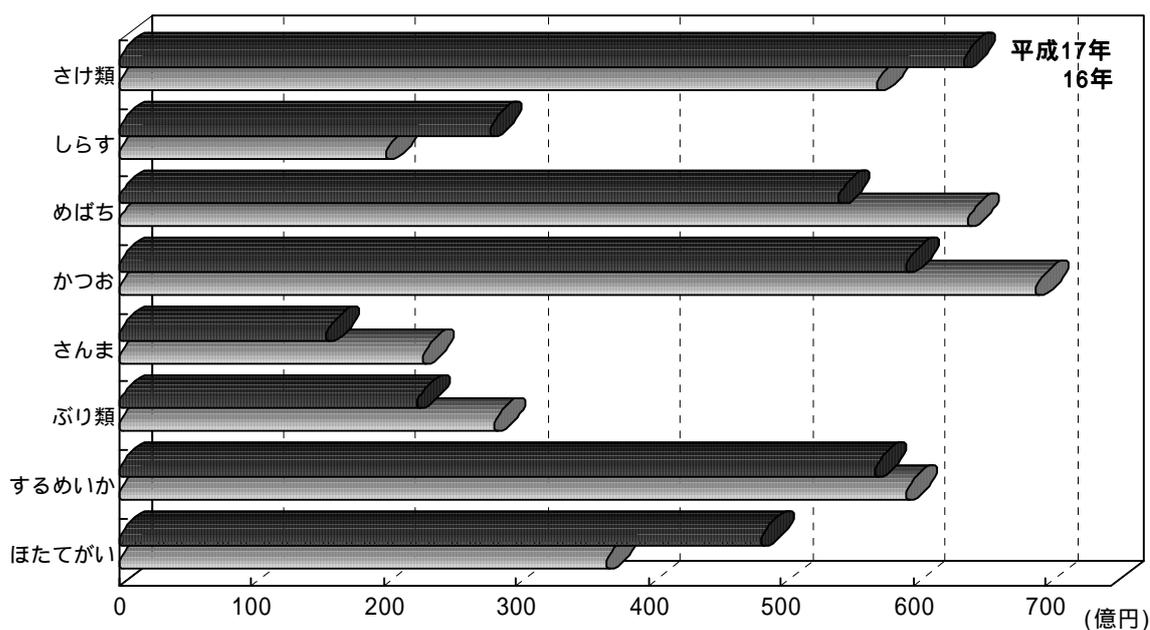
イ いか類の生産額は995億円で、前年に比べ3.3%減少した。

このうち、するめいかの生産額は571億円で、漁獲量が減少したことから、前年に比べ3.9%減少した。

ウ 貝類の生産額は957億円で、前年に比べ8.2%増加した。

このうち、ほたてがいの生産額は485億円で、漁獲量は減少したものの、価格が上昇したことから、前年に比べ31.8%増加した。

図18 海面漁業の主要魚種別生産額



(2) 海面養殖業

平成17年の海面養殖業の生産額は4,392億円で、前年に比べ1.1%増加した。

ア 魚類養殖の生産額は1,918億円で、前年に比べ2.4%減少した。

このうち、ぶり類の生産額は1,055億円で、収穫量は増加したものの、価格が低下したことから、前年に比べ3.5%減少した。

また、まだいの生産額は489億円で、価格は上昇したものの、収穫量が減少したことから、前年に比べ3.6%減少した。

イ 海藻類養殖の生産額は1,213億円で、前年に比べ2.4%増加した。

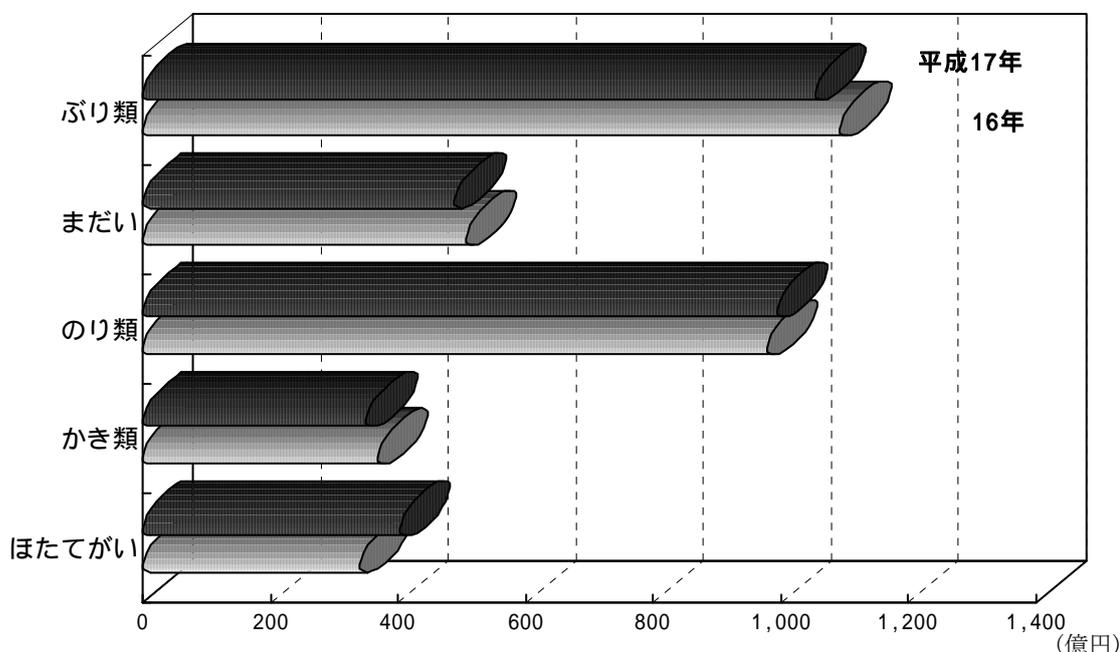
このうち、のり類の生産額は994億円で、価格は低下したものの、収穫量が増加したことから、前年に比べ1.5%増加した。

ウ 貝類養殖の生産額は771億円で、前年に比べ6.4%増加した。

このうち、かき類の生産額は351億円で、前年に比べ4.6%減少した。

一方、ほたてがいの生産額は403億円で、価格が上昇したことから、前年に比べ18.6%増加した。

図19 海面養殖業の主要魚種別生産額



(3) 内水面漁業

内水面漁業の生産額は499億円で、前年に比べ2.2%減少した。

ア あゆ

生産額は243億円で、漁獲量が減少したものの、価格が上昇したことから前年に比べ5.3%増加した。

イ しじみ

生産額は80億円で、漁獲量が減少したことから前年に比べ17.6%減少した。

ウ さけ・ます類

生産額は52億円で、漁獲量が減少したことから前年に比べ13.4%減少した。

エ うなぎ

生産額は24億円で、漁獲量は減少したものの、価格が上昇したことから前年に比べ17.8%増加した。

(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の生産額は519億円で、前年に比べ0.4%増加した。

ア うなぎ

生産額は272億円で、価格が上昇したことから、前年に比べ9.4%増加した。

イ ます類

生産額は100億円で、収穫量が減少したことから、前年に比べ7.2%減少した。

ウ あゆ

生産額は95億円で、収穫量が減少したことから、前年に比べ10.8%減少した。

図20 内水面漁業・養殖業の主要魚種別生産額

